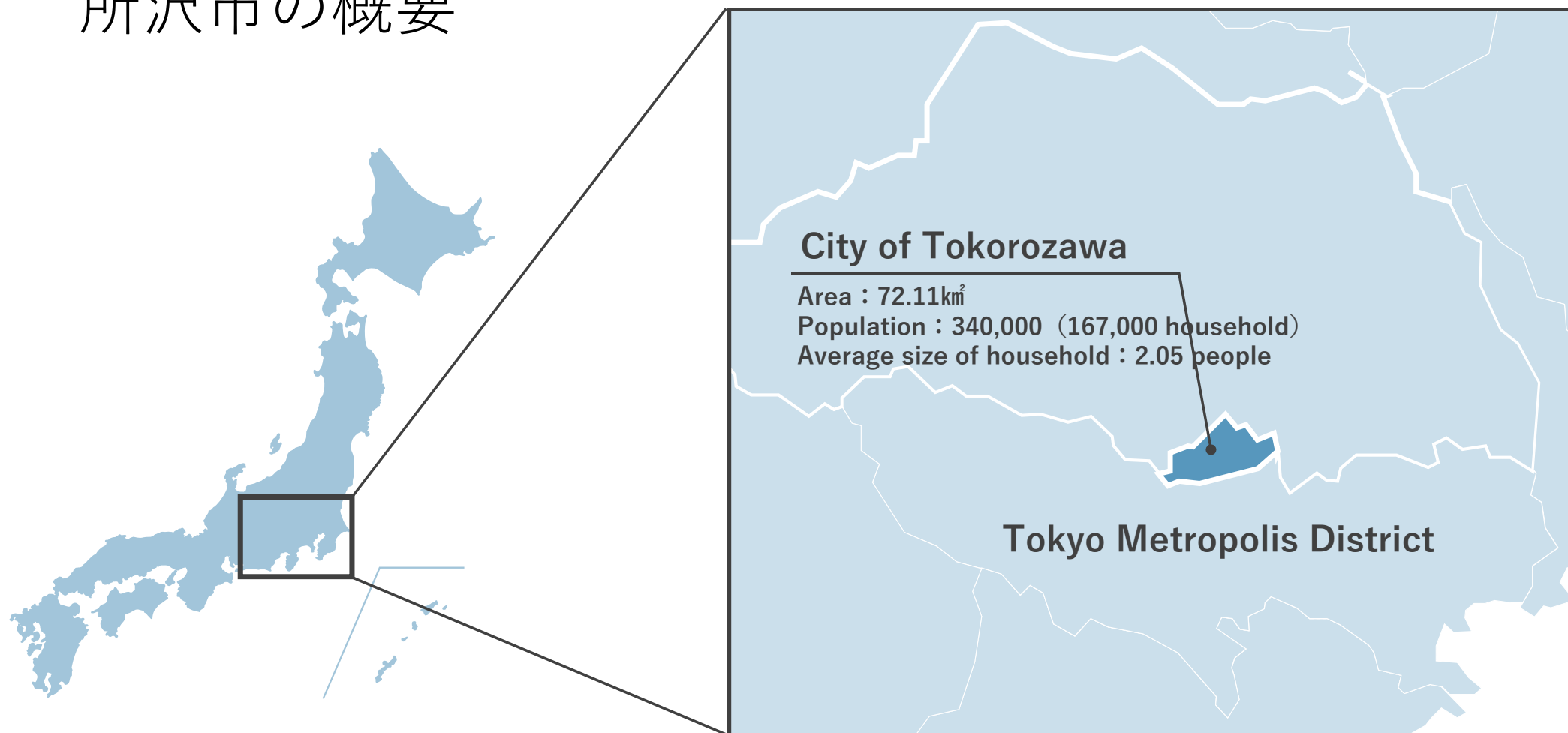


所沢版気候市民会議 マチごとゼロカーボン市民会議



所沢市環境クリーン部
マチごとエコタウン推進課長 齋藤伸宏

所沢市の概要



所沢市の概要

- 人口：約34万人／約16万世帯
- 面積：72.11km²
- 特長：豊かな自然と都市機能が調和



三富新田



となりのトトロ



狭山湖・狭山丘陵



ところざわサクラタウン



狭山茶畑



武蔵野の雑木林



中心市街地

市民会議の目的

参加者一人ひとりが地球温暖化問題を自分事として捉え、議論することで、問題意識を共有すると共に、会議結果を市の環境基本計画（地球温暖化対策実行計画）の改定や具体的な施策に繋げること。

実施体制

主催：所沢市

協力：早稲田大学

委託事業者（運営支援）：（一社）環境政策対話研究所

- ・市が主催することで、計画と施策に反映させることを参加者に約束できる
- ・早稲田大学の学術的知見を活用
- ・研究所の知見と経験を活用

参加者の抽選

✉ 無作為抽出 4,500人へ案内状を郵送

111人から参加希望

参加者51人を決定

「居住地区」・「年齢」・「性別」
が市の縮図となるように調整

参加者51人の構成

表 2-1 年齢構成

年齢	人数	割合	市全体の割合
19以下	11人	21.6%	18.1%
20-29	7人	13.7%	12.1%
30-39	9人	17.6%	13.2%
40-49	7人	13.7%	17.1%
50-59	9人	17.6%	17.0%
60以上	8人	15.7%	23.0%
合計	51人	100.0%	100.4%

表 2-2 性別

性別	人数	割合	市全体の割合
男性	27	52.9%	49.4%
女性	24	47.1%	50.6%
合計	51	100.0%	100.0%

表 2-3 居住地区

	人数	割合	市全体の割合
東	16	31.4%	31.7%
西	20	39.2%	34.7%
中央	15	29.4%	33.6%
合計	51	100.0%	100.0%

「居住地区」・「年齢」・「性別」
が市の縮図となるように調整

会議の流れ

第1回
8月21日

- ・オリエンテーション
- ・参加者交流
- ・地球温暖化について

第2回
9月25日

グループワーク
テーマ1
テーマ2

第3回
10月23日

グループワーク
テーマ3
テーマ4

第4回
11月27日

グループワーク
テーマ5
テーマ6

投票

第5回
12月18日

- ・将来像の作成
- ・投票結果共有

2回目以降の討
論テーマを決定

会議の日程と内容

	日程	内容
第1回	2022年 8月21日（日）	• オリエンテーションと第2回以後のテーマ決定 • 話題提供『気候変動の現状と脱炭素の必要性』他 • グループワーク「普段の生活で取組んだ方が良いこと」
第2回	9月25日（日）	• テーマ1：『商品選択からゼロカーボンを考える』 • テーマ2：『食・農からゼロカーボンを考える』
第3回	10月23日（日）	• テーマ3：『エネルギーからゼロカーボンを考える』 • テーマ4：『住まいからゼロカーボンを考える』
第4回	11月27日（日）	• テーマ5：『移動からゼロカーボンを考える』 • テーマ6：『地域での連携からゼロカーボンを考える』
第5回	12月18日（日）	• 話題提供『里山の利用等』 • グループワーク「所沢市の将来像」、「対策アイデアの整理」 等

グループワークの進め方

情報提供

有識者

地域の
実践者

所沢市



グループワーク

①ゼロカーボン実現に向けて
取組のアイデア

②実施するにあたっての課題

③課題への解決策

グループワークのルール

- ▶ 発言を遮らない、否定しない
- ▶ 発言は短く、簡潔に
- ▶ 話を聞くときは頷こう
- ▶ 発表したら拍手しよう
- ▶ 議論の場ではなく “対話の場” を意識しよう

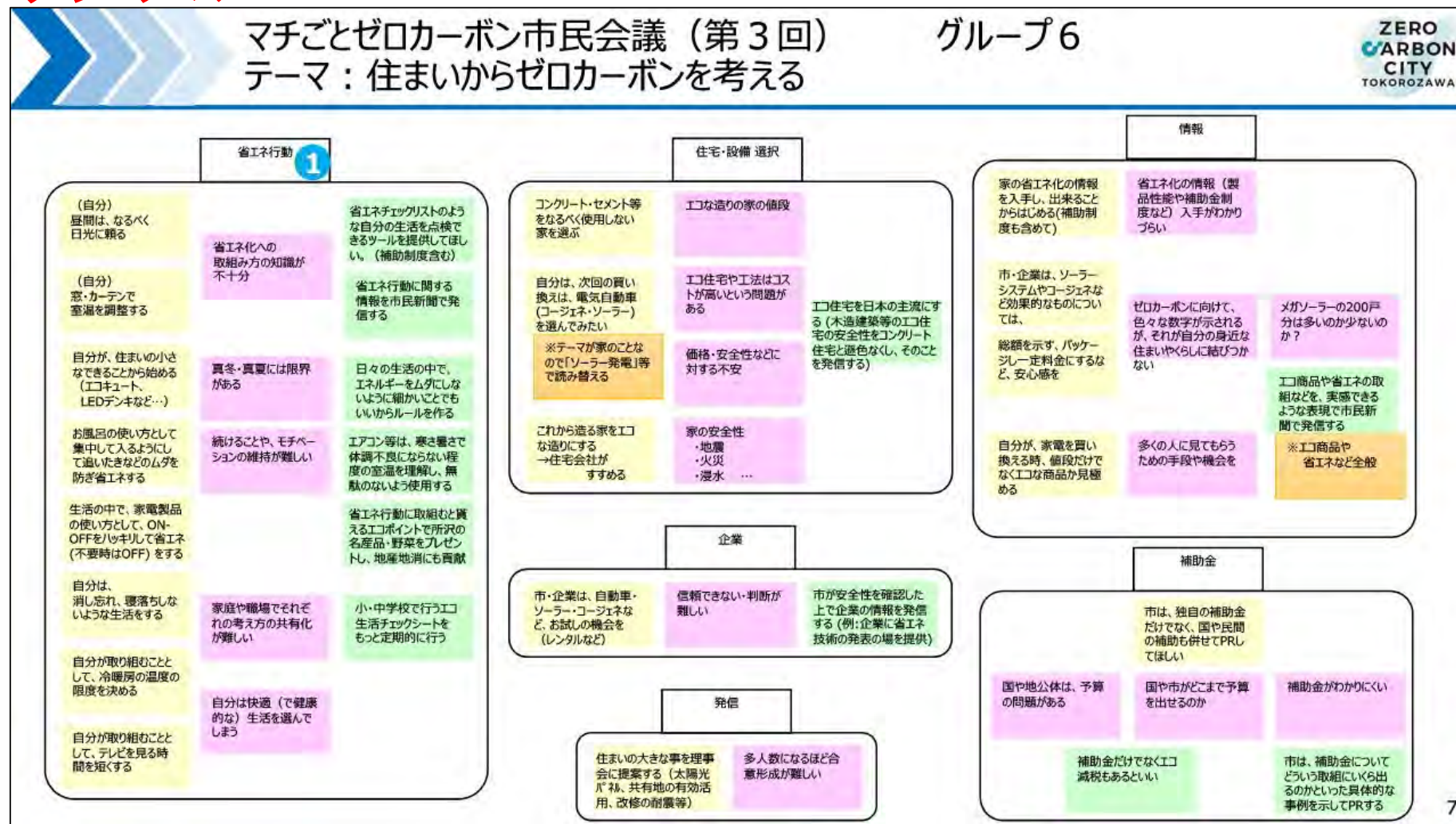
議論で勝ち負けを決めるとか、意図がある結論に誘導するとか、異議を許さないということではなく、対等な人間関係の中で、お互いに尊重し合い、かつ何度も論点を往復しているうちに新しい視野が開け、何かが生まれること

グループワークの様子



グループワーク結果を整理（データ化）

サンプル



6つの「テーマ」ごとに28の施策に分類

テーマ1『商品選択から考えるゼロカーボン』

- 施策1.容器包装および使い捨てプラスチックの削減を促進する
- 施策2.リユースやリサイクルを促進する
- 施策3.カーボンフットプリントを踏まえた商品選択を促進する
- 施策4.ゼロカーボン促進のために経済的インセンティブ（動機付け）を強化する
- 施策5.所沢ゼロカーボン認証（仮）を導入し積極的な店舗に認証ラベルを付与する

テーマ2『食・農から考えるゼロカーボン』

- 施策6.農産品の地産地消及び旬産旬消を促進する
- 施策7.食品ロスを減らす
- 施策8.ごみの堆肥化と活用
- 施策9.食と農への理解を深める取組を推進する

テーマ3『エネルギーから考えるゼロカーボン』

- 施策10.家庭向け太陽光発電を促進する
- 施策11.地域における再エネ設備の設置を促進する
- 施策12.再生可能エネルギー比率の高い電力（再エネ電力）への切り替え促進
- 施策13.エネルギーに関する市民活動を促進する
- 施策14.(株)ところざわ未来電力の利用拡大に努める

テーマ4『住まいから考えるゼロカーボン』

施策15.機器・設備などの省エネ化を促進する

施策16.住まい・暮らしでの省エネ型ライフスタイルを促進する

施策17.まちに緑を増やす

テーマ5『移動から考えるゼロカーボン』

施策18.自転車・徒歩での移動を促進する

施策19.バスの利用を促進する

施策20.自家用車を使わなくてもよいまちづくり

施策21.エコ車両の利用とエコドライブの促進

施策22.輸送の削減と効率化を図る

施策23.自転車や徒歩でも安全に通行できる道路整備を進める

テーマ6『地域での連携から考えるゼロカーボン』

施策24.地域の連携をまちづくりに生かす

施策25.教育を通じた連携を促進する

施策26.地域連携でゼロカーボンへの取組や活動を広報する

施策27.コミュニティでの取組を促進する

施策28.まちごとゼロカーボンを協働で進める体制を作る

28の施策について「アンケート形式の投票」

サンプル

各設問について、ご自身の考えに近いものに○を付けて下さい。

テーマ1『商品選択から考えるゼロカーボン』

1. 容器包装および使い捨てプラスチックの削減を促進する

商品を購入する際、プラスチックなどの容器や包装がない、もしくは少ない商品を選択する。また、マイボトルの利用などの日常生活の工夫に加え、商品を購入する際にはレジ袋を使わない。事業者等は地域共通のリユース容器を繰り返し使えるような仕組みを作る。

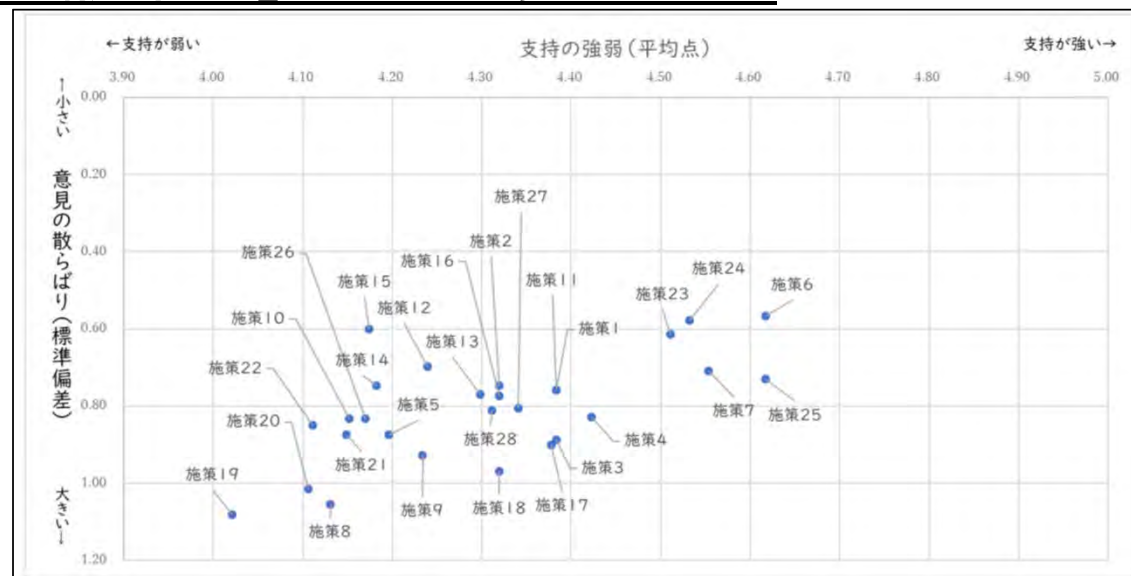
関係するキーワード：量り売り・裸売りの活用、詰め替え商品を選択、大容量商品の購入、マイ箸・エコバッグなどの利用

課題：衛生面の懸念、（コストの問題）

①全く推進すべきでない ②あまり推進すべきでない ③どちらでもよい ④推進すべき ⑤積極的に推進すべき ⑥わからない

この項目について、ご意見があればご記入ください（自由記述）

投票結果を集計し「散布図」として見える化



【横軸：平均点】

投票結果の支持度に重みづけをするため、①～⑤の各選択肢に以下のとおり配点して各回答数に乘じ、その合計値を全回答数（「⑥わからない」は除く）で除した数を「平均点」としました。この数値が大きいほど施策に対する全体的な支持度が高いことを示しています（最大値：5.00）。

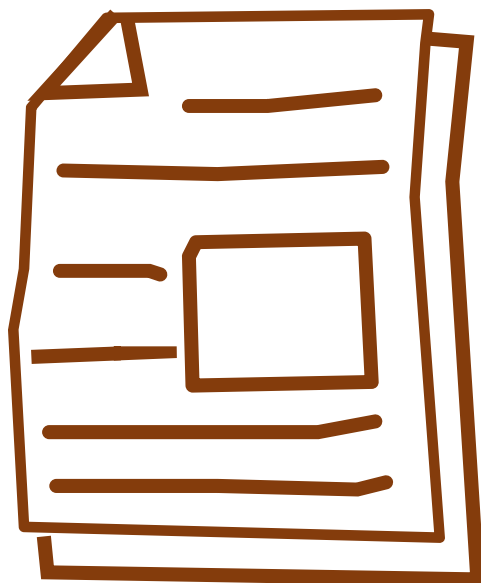
〔配点：①全く推進すべきでない＝1点、②あまり推進すべきでない＝2点、③どちらでもよい＝3点、④推進すべき＝4点、⑤積極的に推進すべき＝5点〕

【縦軸：標準偏差】

施策に対する参加者の意見（選択）の散らばり具合を示しています。数値が0に近いほど参加市民の選択がまとまっており、数値が大きいほど個々人の選択が分かれていることを意味しています。

市民会議の結果を市の施策へ反映

報告書



反映

所沢市環境基本計画
(地球温暖化実行計画) の改定

「所沢市脱炭素社会を実現さ
せるための条例」を制定

参加者が「所沢市の将来像」を作成してイメージ化



報告書はこちら



早稲田大学との連携（官学連携）

- 官学連携の成功モデルとして、福祉や健康分野への波及に期待
- 翌年度、早稲田大学が市民会議を継続して実施



参加者や学生が新たな市民団体立ち上げた

⇒早稲田大学と所沢市が活動をバックアップ

～市民団体自らが新たな活動を始めた～

- ・ 再エネ施設の見学
- ・ 地元野菜を使ったの調理イベント
- ・ シンポジウムへの参加
- ・ イベントでの啓発活動

